



「共に生きる」

ちいろば会理事長 大澤 星一

4月から 2025年度が始まり、それぞれ与えられた場でいろいろなことを思い、考えながら過ごしていることとおもいます。

僕は 3月末をもって西大和教会の牧師を辞任し、4月から東京目黒にある中目黒教会へ赴任し、牧師と附属幼稚園である中目黒幼稚園の園長として過ごしています。奈良と東京ではあまりにも遠いため理事としての責任を果たすことは難しく、そのためちいろば会の理事をこの 5月の理事会をもって辞任することになりました。

2006年に沖縄から西大和教会に来て 19年間。それは僕の牧会や信仰やモノの考え方にとっても大きな示唆や影響を与えてくれました。特に配慮を必要としている人たちとどう生きていくのか、それは人との関わりの根本的なところを形作ってくれたのであり、私たちの社会や世界はどうあるべきかということを教えてくれたのではないかと思います。

ちいろばが掲げている「共に生きる」とは、仲良くしましうとか、人には優しくしましうなどという生易しいことではなく、共に生きていかなきゃいけないこの世界で、どうやって人と関係を作って生きていくのかということを考えるということです。そういう意味では、ちいろばと共に過ごす、ちいろばで過ごすということは何も特別なことなのではなく、ごくごく当たり前のことなんだとおもいます。

しかし、今の日本の社会はまだまだそれが当たり前になっていません。それどころか、ますます生きにくさが加速していつにすらすら思えます。何とか本来あるべき姿、それが神さまやイエスさまが示して下さった神の国の姿なのだと思いますが、その完成のために祈り働かなければと思います。

ちいろばが 1989年に始まって 36年になります。2012年に最初の理事長を担って下さった古館晋さんが亡くなり、それから 2022年に高見牧師が、2023年にまり子先生が、そして昨年は木ノ脇牧師が亡くなりました。それ以外にももちろんちいろばを支えて下さった方々や利用者さんの家族の人たちや仲間もたくさん天に召されていきました。本当に沢山の人がちいろばに集い、共に過ごし、祈り、支えてくれました。そうしたちいろばの歴史の中で少しの間でしたが、奉仕の機会を与えられ、いろいろな気付きを与えて下さったことを心から感謝いたします。

ちいろばの利用者さんや家族の方々、またそこで働く職員の皆さん、支えて下さる皆さんの上に神さまの守りと導きがあるように、祈っています。19年間本当にありがとうございました。

～ そこに愛はあるのか？ ～

グループホーム主任 米田 守

ちいろば園が休日のときグループホーム利用者の方々はそれぞれのホームでいろいろな過ごし方をされています。職員と一緒に散歩にでかけたり、おやつづくりをしたり、買い物に出かけたり、自分の部屋でテレビやDVDをみたり、ゲームをしたりする方もいます。中にはヘルパーさんと一緒に出かけるなどさまざまです。ある日の休日のこと・・・グループホーム利用者のOさんがヘルパーさんと朝から外出され、夕方帰ってこられたときにヘルパーさんからの報告で「お昼は吉野家の牛丼と一緒に食べて、文化ホールで音楽コンサートをみたあと帰りにマクドナルドで休憩し電車に乗って帰ってきました！」とニコニコ笑顔でお話され、今日Oさんはヘルパーさんと外出され一緒に楽しく過ごされたんだなあ とホッとした気持ちになるところがありました。

同じ福祉サービスの外出支援でも支援者によっては本当に今を楽しみ過ごしてるの？と思うような場面を街中でみかけるときがありました。どうしてもそこに目がいてしまうんです・・・ジロリと観察していると「外出楽しんでますか？お～い！やる気のないヘルパーさん、合間にタバコを吸って、利用者の後ろにスマホをみながら後をついて歩いてるだけ？」 たまに声をかけるだけで質の悪い支援でひどいなあと思うことがありました。

私たち、ちいろば会では食事の介助のときは「食事介助」とは言わず「食事どき介助」と言っています。それは食事のとき支援が必要な方に対して食事の介助だけではなく、その後の休憩時間含むときを有意義に過ごしてもらうために支援するという意味で「食事どき介助」と言っています。ちいろば園でいうと・・・昼食のお昼休みを食事だけでなくその利用者の方とお昼の時間を一緒に過ごし、食後も他の利用者とおしゃべりをしたり自動販売機で好きなジュースやコーヒーを買って飲んだりするなど休憩時間を共に有意義に過ごし支援するということです。

先にお話ししたような外出支援に対して「そこに愛はあるのか？」「自分の仕事に対する思いはないのか？」と問いたいです。そのヘルパーらしき人もおそらくその利用者に対してなんの思いやりや感情もなく、ただのみまもり、ただの外出で何事もなく、そのとき(勤務時間)だけが過ぎさり、自分にかかる仕事の責任に対するリスク回避の声かけだけで、それが仕事とだと思っておられるのでしよう・・・。ほんとに！どんな仕事でも一緒に、私たちはお金をいただいて仕事をしている以上プロなのです。今日入職しようが10年働いていようがそんなこと外からみていて関係ありません。学生時代のように授業中に居眠りをしている、遅刻しようとも、宿題を忘れようとも、同じように済まされる訳にはいかないのです。また、なにをされていて当たり前のようにそこに居ればお給料はいつも貰えるものだという思いがあるならば、その場から去るべきです。それがプロ(仕事)なのです。そんな意識を少しぐらいはもつこと、今の時代必要じゃないのでしょうか・・・。



— ぼくも わたしも みんなが主役！！ —

— 大橋 賢志朗さんの場合 —

僕は今、ちいろば園に来て、毎日がんばっていることがあります。



ぼくがいる軽作業2階A班では、『みさとほきもの』さんの仕事で草履を入れる箱を作っています。その作業の中で、箱折りの作業があります。今までは、ただ折り目にそって折るだけで、はじめと終わりが分からなくて、おもしろくなかったから、作業室にじっとしているのがいやでした。

それを、一枚ずつ箱を折ってからクリップを4つとめて折り目をしっかりつけるように手順が変わってから、むっちゃん頑張れるようになりました。

できたものが、どんどん自分の前に積みあがっていくのが楽しくなってきました。今では、みんなと一緒に作業室で作業することができるようになりました。

また、一日の予定も、事前に職員と一緒にピクトグラムをみて、何時になったら何をしなければならぬのかを確認することで、一日を通して落ち着いて過ごすことができてきました。まだまだ 気になることややりたいことをやめられずに時間に間に合わない時もあるけど、これからもがんばります。

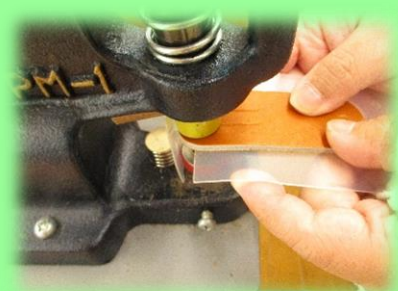
9:30		あさのかい
9:35		さぎょう
10:30		きゅうけい
10:45		さぎょう
12:20		きゅうしょく
1:10		

— 辰巳普宣さんの場合 —

僕が今自信をもって取り組んでいる作業があります。それは型を抜いた革にボタンをはめこむ「ボタンつけ」の作業です。JINTOさんから頂いている作業で、元々は手でレバーを押し込みボタンをはめ込む機械だったものを、障害をもつ人が取り組みやすいよう足踏みでできるように改良された機械になっています。ただ、はじめは機械で手を挟んで怪我をしたら怖いし、細かい動作が難しく、他の作業をしていました。でも本当はできるならやってみたかった。出来る人が羨ましくて自分ができないことがくやしかった。



そんな時、自分でもできるように、工夫をしてもらえるようになりました。革が小さくて持ちにくいところを、プレートを敷くことで持ちやすくなり、手を機械に挟むかもしれないという不安もなくなりました。思いっきり踏んでしまっていた足のペダルにスポンジを置くことで大きな音



を立てず、機械に負担をかけず作業ができるようになりました。今では、得意な作業の一つです。出来るが増えることがとてもうれしかったし、なにより出来たことでみんなが喜んでくれたのがうれしかった。僕はみんなが喜んでくれることが本当にうれしいです。これからも、どんどん新しいことにチャレンジします。

—ちいろば園と私の現在進行形の思い—

ちいろば園職員 佐藤 菜月

ちいろば園の職員として入職させて頂き、1年が経ちました。全く無資格、無経験でありながら採用して頂き、頑張ろう！と一念発起、しかし初日で「あっ！」と思った事を覚えています。その「あっ！」は、今思えば障害を持つ利用者のみなさんがさまざまな個性をもってらっしゃったこと。その個性に私が向き合えるのか。の不安の気持ちでした。

そんな日々過ごす中で、先輩方の助言や行動を見ていると、利用者の皆さんのキラキラ輝いている部分がとても感じるようになりました。親切で、優しく、正直に思いを表現される、いつの間にか不安の気持ちはなくなり、もっと知りたい！の思いが強くなりました。

ご縁とも言えるべきか私の子供たちは全員、愛の園幼稚園に通わせて頂きました。3人目は当初は保育園に通わせており、その頃に上の子二人から、もちろん卒園アルバムは愛の園だよね？楽しみ！と言われた事で、愛の園幼稚園を決意しました。今思えば、子供たちも愛の園が大好きでしたが、私の思いもあったと思います。子供の個性を大切に考えて下さる、不安だった頃の私に寄り添って下さった優しい先生方。障害があるなしに関わらず、一緒の時間を過ごし、楽しむ、共に生きる。そしてその先にちいろば園があり、その後も子供たちも、ちいろば園のことを小学校で学び、実際に見学させていただける機会があり、より親子共に身近な存在となりました。そういえば以前合同バザーに大きな声でお話していた〇〇さん、え！今、目の前にいる〇〇さんだったんだ！などなど今、身近で働かせて頂いている事、子供たちと話題を共有できている事、感慨深い気持ちと働かせて頂いている事に、日々感謝の思いです。

私は初めまして、利用者の皆さんからはあなたは誰？
から始まり、辛い事も嬉しい事もあり、一年経ちましたが、
より絆を深め、高めあっていきたい、まだまだ今から
よろしくお願いします！が、今思う、ちいろば園と私の
現在進行形の思いです。



グループホームでの『一人暮らし』

グループホーム職員 辰己浩規

ちいろば会のグループホーム『日之出荘』、『すみれ荘』、『エンゼルハウス』、『にぬふあ星』の利用者の方は、現状 2 週間に 1 度自宅に帰省されています。親御さんの高齢化、負担軽減のためにも帰省頻度を減らしていけるよう取り組んでいます、職員不足という大きな課題があります。

そんな中、『にぬふあ星』で暮らしている M さんですが、自宅はあるのですが親御さんの病气もあり施設に入られたということで、数年前からみんなが帰省する日も一人でグループホームで過ごす事になりました。職員は夜の 2 時間だけ入り、お風呂、夕食の準備片付け等の支援をしています。日中職員はいてません。

では M さんは一人の時どのように過ごしているかという、まず朝・昼のご飯に関しては一人で準備して食べています。朝はトーストとコーヒー、昼は冷凍のお弁当やカップ麺を食べてもらっています。電子レンジは最初一人では難しかったものの、ツールを見ながら繰り返して、今では一人でも使えるようになりました。

日中は、一人で歯科受診したり、王寺にあるセイユーに買い物などに行かれます。お出かけした日は夕方 5 時までに帰ってくるよう約束しているのでそれもきちんと守られています。最初は玄関のカギの戸締りも不安に思っていた M さんですが、こちらは今では何の不安もなくきっちり戸締りをして出かけて行かれます。後、M さんの楽しみと言えば、日曜日の朝テレビで『プリキュア』を見る事です。グッズをたくさん持っています。出かける時はそのグッズを身に付けて行かれます。

一人の時間を充実して過ごしている M さんですが、実はみんなが帰省する前、特に大型連休前 (GW、お盆休み、年末年始) には「明日から一人暮らし。がんばれー」とよく言われています。後、急に不機嫌になりドアを強く締めたり、ご飯の時間になっても部屋から出てこなかったり等の行動をされます。なぜそんな行動をするのだろう？とよくよく考えました。おそらくですが M さんは私達が想像している以上に一人で過ごす不安感、自宅に帰れない、一人になるさみしさを感じているのだと思います。

職員不足という大きな課題もありますが、私達はそんな M さんに自信をもって生活してもらえよう、M さん含む利用者みなさんの気持ちに寄り添い支援していきたいです。



今年、3月7日（金）三郷北小学校3年生の子どもたちが地域学習でちいろば園へ見学に来てくれました。後日、子どもたちからすてきな見学の感想をいただきましたが、今回は、引率でお越しいただいた先生方の感想を掲載させていただきます。

ちいろば園見学に行って



三郷北小学校3年 教師集団感想

☆子ども達とともに、私たちもたくさんのことを学ばせてもらいました☆

ちいろば園の事を子どもたちに、くわしく教えてくださり、ありがとうございました。見学を通してちいろば園の方の事を知り、その後の交流にも繋がっていると聞きとても嬉しく感じています。出会いの第一歩としてとても貴重な場を用意して頂きありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。 中江 円

ちいろば園の方が教えてくれた「障害＝苦手なこと」という説明は、算数が苦手でも跳び箱が得意な子がいるように、人が持つ「凹み」の一つだと腑に落ちました。作業場で黙々と作業を続けるみなさんの集中力や、適切な役割分担を見て、苦手を補い合えば強みが際立つと実感しました。「できる」と「できない」は常に隣合わせだと気付かされました。教室でも子ども達の小さな得意を掘り起こし、苦手をセッティング受け止めたいと思います。貴重なお時間ありがとうございました。 山田 史哉

みなさんの子どもたちへの説明に、ちいろば園を大切にしている気持ちを感じました。熊谷 尚士

ちいろば園
しょうがいのある子に関わらず、子どもも大人も一人の「人」として関わっていく姿がすてきでした。しょうがい＝苦手なことと教えていただき、子どもたちもちいろば園の人たちのことを自分たちから知ろうとしていたのがうれしかったです。 本田

「障がい＝苦手なこと」という言葉が印象に残っています。誰にでも得意な事、苦手な事があるという事を大事にして、いろいろな人がいるちいろば園を見学できて嬉しかったです。また、ちいろば祭りでもよろしくお願い致します。 水野 美奈

我々教師もまだまだたくさん知らないことだらけですが「わからない」で立ち止まらず、まず尋ね、調べ、関わる。—その姿勢を子ども達に示したいと思います。たくさんの方の事を今回の見学で子ども達とともに学ばせて頂きました。 木原

しゃかいふくしほうじん かいちいきこうえきじぎょう
社会福祉法人ちいろば会地域公益事業
ねんどじょうえいかい こうかいこうぎ
—2025年度上映会と公開講座のごあんない—

あ
ん



(C)2015 映画「あん」製作委員会／COMME DES CINEMAS／TWENTY TWENTY VISION／ZDF-ARTE

ねん がつ にち ど
にちじ：2025年6月14日 (土)

かいじょう かいえん
13:00 開場 13:30 開演

えん かい かい ぎしつ げんてい せき
ばしょ：ちいろば園2階会議室 (限定60席)

※ 映画観賞後、みなさんから感想等をお聞きする時間を設けます。

※ 観賞希望の方は事前予約をお願いします。

※ 席に空きがあれば、当日でもご覧いただけます。

※ 王寺駅までの送迎を行います。(要事前予約、詳細は予約時にお伝えします)

さん か ひ
参加費
む り ょ う
無料

ほうじんけんしゅうかいこうかいこうぎ
—法人研修会公開講座のおしらせ—

ちいろば会では、毎年、様々な人権課題について職員研修を実施しています。

本年度は、「ハンセン病差別に学ぶ」をテーマに3回の連続講座を予定しています。

講師は、「架け橋 長島・奈良を結ぶ会」にご協力いただきます。

この貴重な学びの機会を地域のみならずにも公開したいと考えています。下記の日程で講座を開催する予定です。参加希望の方は、事前にご連絡ください。

第1回2025年8月2日 (土)、第2回2026年1月17日 (土)、第3回2026年3月20日 (祝・金)

※ 講座の内容、時間等詳細は後日、ホームページで公開、もしくは、申込時にお伝えします。

※ 講座は、1回だけの受講でも可能です。

えいがかんしゅう こうかいこうぎ と あ じぜんよやく もうしこ
映画観賞、公開講座のお問い合わせ事前予約、お申込みは・・・

奈良県生駒郡三郷町勢野北 5-6-14 ちいろば園 TEL/0745-72-1923, FAX/0745-72-1924

担当：奥田、富田

☆後援会費・ちいろばだより年間購読料 (2025年2月1日～2025年3月31日)

ありがとうございました。

篠原範子、箕面教会、高の原教会、奥口博夫、森谷宏三、医) 金泉会

以上 敬称は略させていただきます。

※ ちいろばだより年間購読料は 500円/年です。ご協力いただける方は同封の振込用紙をご利用ください。

※ ちいろばだよりの配送停止をご希望の方は、ちいろば園までご連絡ください。

ブルーベリー狩りのご案内

今年も 7月22日 (火) ～7月31日 (木) の間 (平日のみ) ちいろば園ブルーベリー畑でブルーベリー狩りを実施します。

料金は、お一人1時間で中学生以上500円、3歳～小学6年生300円です。

時間内は、摘み取った実は食べ放題です。摘み取ったブルーベリーのお持ち帰りは、1パック (100 g) 320円です。

お問い合わせとご予約は、ちいろば園ブルーベリー担当まで・・・

(※ブルーベリー狩りをして頂く場所は、専用の指定範囲があります。)



ーちいろばまつりのご案内ー

今年も例年どおり、9月の第2土曜日に「ちいろばまつり」を開催します！！

今年は、昨年と同様に「絵の本ひろば」、あてものやゲーム、やきそばなどの食べ物に加え、レザークラフトのワークショップやたこ焼きも出店予定です。

詳しくは、次号 (8月末) のちいろばだより、ちいろば会ホームページ等で周知します。

みなさん、お誘いあわせのうえお越しく下さい。

にちじ： 2025年9月13日 (土) 10:30～13:00

ばしょ： ちいろば園



KSKS ちいろばだより

編集人／ ちいろば会後援会

年 6 回 頒価 50 円

連絡先／ 奈良県生駒郡三郷町勢野北 5 - 6 - 1 4

TEL : 0745-72-1923 FAX : 0745-72-1924

発行人／ 関西障害者定期刊行物協会

大阪市天王寺区真田山町 2 - 2 東興ビル 4 F